

## 教育は権利、子どもが権利の主体

11月22日に開催された長崎高教組・長崎私教連主催長崎県教育研究集会（秋の教研）で「教育と憲法—原点と現点—」の演題で活水女子大学の渡邊弘さんの特別講演が行われました。小気味よい語り口で、教育と憲法の関わり、自民党憲法改正草案の問題点を語っていただきました。簡単に報告します。

本題に入る前に、高校、大学で教鞭を取る事になった理由として、「生徒たち、学生たちが本当の意味で可能性を見だし、羽ばたくところに立ち会える教職のすばらしさ」を上げられました。また、労働組合の役割の大きさについて言及し、組合役員のすばらしさを声を大に訴えられました。役員の一人として、うれしく思いました。

さらに、「特定秘密保護法案」が強行採決されようとしていることについて、一部ジャーナリストや公務員だけが対象になるという誤解があり、反対運動に盛り上がりや欠けたきらいがあるが、実は我々の人権にかかわるものとして、今からでも遅くないので、法案反対の意思表示をしようと呼びかけられました。法案反対の原則・視点としては、日本国憲法は知る権利を規定しており、秘密を許す事は、憲法違反であるという一言につきる。憲法前文の「平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼し・・・」とは、外交に秘密があるという世界から決別を宣言しているし、「いづれの国家も・・・、他国を無視してはならない」とは信頼をもとにするとの宣言である。

本論にもどって、「教育と憲法」を語るとき、憲法第26条1項の意味をとらえ直さなければならない。本質は「教育は権利である」ということ。国家や社会のために教育が存在するのではなく、各自が持っている可能性を最大限に発揮するのが、教育の目標である。「開花する才能がある。それを見つけたす手助けをするのが教育の役目である」また、2項は金の有る無しで、できるできないはおかしいと言っている。授業料無償が崩されようとしている今、教員が訴えなければならない。

政府は、社会保障制度改革と銘打って「自助、共助、公助」を打ち出しているが、教育場面でも、道徳の教科化など金を出さずに中身に口を出すという愚挙を行っている。教育に関して国がやるべき事は、「金を出し、教育の権利を支える事」であり、教育の中身は、生徒・保護者・地域・教員の4者が作り上げていく事である。長崎市が作成中の「いじめ対策条例」についても、子どもに要求する事が多いことは問題。そうではなく、子どもが成長するために大人が何をしなくちゃならないかを明示すべき。子どもを権利の主体としてとらえる事が大切である。

戦後の教育の原点は、「教え子を再び戦場に送らない」という誓いである。このことを胸に、日々の教育活動に邁進していただきたい。

すべては、憲法にもどる。



26日、「特定秘密保護法案」が衆院の特別委員会で強行採決され、その後衆議院本会議で可決され、参議院での審議にまわされました。「特定秘密保護法案」は、アメリカのために便宜を図る事、憲法改正のための準備と言う事がいえます。記事を紹介します。

### 「立法府の敗北」「恥を知れ」＝野党抗議の中、可決

「立法府の敗北だ」「恥を知れ」。特定秘密保護法案が採決された26日午後の衆院本会議。修正に加わった日本維新の会議員が退席し、反対する野党や傍聴席から抗議の声が上がる中、採決に持ち込まれた。午後6時45分、議場に伊吹文明議長が入場し、開会を宣言。本会議は当初午後1時から予定されていたが、開始が大幅にずれ込んだ。

冒頭、同法案に先立って別の法案について審議があり、特定秘密保護案について野党議員が「国民が納得しておらず、立法府の敗北」「民主主義の終わりの始まりだ」などと抗議した。同7時25分ごろ、法案が緊急上程されると、維新議員はそろって退場。討論に立った野党議員からは「パブリックコメントで寄せられた意見の8割が反対」「情報は主権者国民のものだ」などの批判が相次いだ。

その後採決に移り、「反対」との声が上がる中、与党議員らが起立し、賛成多数であっさり可決された。議場は拍手に包まれ、安倍晋三首相は一礼して退場。一般傍聴席にいた男性が「恥を知れ」と怒鳴り声を上げ、警備員に取り押さえられる場面もあった。

採決後、民主党の海江田万里代表は「対案をしっかりと作り委員会でも主張したが、与党と議論する時間が少なかった」と力なく語った。維新の上西小百合議員（比例近畿）は「十分な審議とは言えない。傲慢（ごうまん）な進め方だ」と与党を批判。同じく維新の中田宏議員（比例北陸信越）も「地方公聴会の翌日に採決では、意見を聞いたことにならない」と反発した。また、採決直前に議場を出たみんなの党の江田憲司議員（神奈川8区）は「安全保障や国民の知る権利に関わる重大法案。強行採決は断じて容認できない」と語気を強めた。今の法案では「官僚支配を助長する」と指摘。議論を深めたいと思う中での強行採決に「裏切られた思い。断固抗議する」と硬い表情で語った。 【時事通信】

### 「巨大与党の暴走が始まった日」海江田代表

「11月26日は巨大与党の暴走が始まった日だ。安倍内閣の衣の下からよろいが見えた」。本会議終了後、記者団の質問に応じた民主党の海江田万里代表の言葉には憤りと無念さがにじんだ。 【毎日新聞】

### 福島をバカにするな 公聴会翌日に強行採決

前日の25日に福島市で開かれた地方公聴会では、意見陳述した7人全員が反対や懸念を表明。だが、その声は反映されなかった。「どこまで福島をバカにするのか」。拙速な結論に憤りが渦巻いた。 【毎日新聞】